

# カメラポジション

ハイポジション



アイレベル



ローポジション



カメラポジション



被写体に対するカメラの撮影位置のことをカメラポジションと言う。そして特に高さに関して、立って顔の高さに構えるのをアイレベル、しゃがんで低い位置に構えるのをローポジション、立って頭上よりも高い位置に構えるのをハイポジションと言う。

気をつけたい構図

頭に背景の柱などが重なると頭に刺さったように見えるのでよくない。こうならないようにカメラポジションには気を付ける。

船のマストが頭に刺さったよ  
くない例



カメラポジションに気を付け  
た例



# カメラアングル

## カメラアングル

カメラポジションがカメラの位置を言い表す言葉であるのに対して、カメラの被写体に対する角度を言い表すのがカメラアングル。被写体を見下ろすのをハイアングル、見上げるのをローアングル、水平に構えるのは水平アングルと言う。高い建物を見上げるように写すときは立っていてもローアングルである。

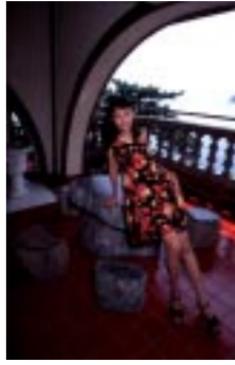


ハイアングル。この写真では28mm広角レンズを使っているため遠近感が誇張され、頭が大きく下のほうほど小さく写る。

ローアングル。この写真も28mm広角レンズでやや近づいて撮影しているため遠近感の誇張によって足が大きく長く写っている。

## カメラアングルと遠近感

ハイアングルとローアングルで、さらに広角レンズによって遠近感を誇張したもの。右の写真は85mm望遠レンズで撮影したもので、カメラポジションの高さの差は上の写真よりも大きい。アングルは小さくなり、遠近感も弱くなるので人物の写り方にあまり違いは生じない。



# 構 図

## 縦位置と横位置

風景や建物の写真では横位置では広さが、縦位置では高さや奥行きが表現できる。このときズームレンズでは画角を調節することによって最もいい構図にすることができる。単焦点レンズではその固定された画角で風景のどこまでを入れて、どこから捨てるかによって横位置、縦位置を選ぶこともある。



横位置



縦位置

人物だけを撮影する場合は縦位置が中心になるが、背景や状況によって使い分ける。



構図は撮影ポジションで決まる

構図は被写体に対するカメラの撮影ポジションとレンズの画角によって決まる。この撮影ポジションは被写体に対して前後、左右、上下の3方向、すなわち3次元の中に無数に存在する。そこでレンズの画角に応じてもっとも気に入った構図になるように3つの方向について最適な撮影ポジションを探す。同じ被写体でも撮影ポジションを変えることで写真も変わる。



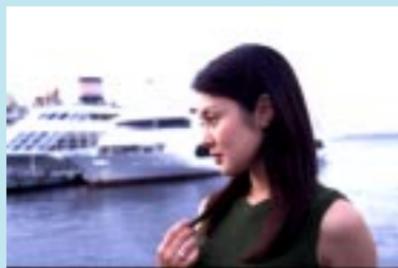
上 ギガンチウムの畑をややハイアングルで撮影

下 カメラポジションを花と同じ高さにして望遠レンズで撮影

50 mmレンズで人物とはやや距離をおいて撮影



50mmレンズで人物に近づいて撮影



# フラッシュ撮影

## 暗いところのフラッシュ撮影

手持ち撮影ではカメラブレを起こしてしまう暗いところではフラッシュが威力を発揮する。フラッシュはその発光量とフィルムの感度、絞りによって撮影可能な被写体までの距離が決められる。



遅いシャッターによってブレた写真。  
絞り F 4、1 / 2 秒。



シャッターが 1 / 60 秒によるフラッシュ撮影ではフラッシュ光が届かない背景は暗い。



シャッターを 1 / 4 秒にしたフラッシュ撮影では背景も写すことができる。

## フラッシュのガイドナンバー ( G . N . )

フラッシュの光量を言い表す数値で、フィルム感度が ISO 100 の場合の絞り値と撮影距離 ( m ) とを掛け合わせた数字。例えば G . N . 20 のフラッシュは絞り F 4 では 5 m まで光が届くことになり、3 m では F 6.7 に絞ればよいことになる。同じフラッシュでも使用フィルムの感度が 2 倍になると G . N . は 1.4 倍となり撮影距離も 1.4 倍に伸びる。例えば G . N . 20 のフラッシュでも ISO 400 のフィルムであれば F 4 では 10 m まで撮影可能となる。

$$G . N . ( I S O 100 ) = F \text{ 値} \times \text{撮影距離 ( m )}$$

# フラッシュ撮影

## 日中シンクロ撮影

逆光や人物のいる場所が暗いため人物が背景よりも暗く写ってしまうとき、フラッシュを発光させることで人物を明るく写すことができる。日中のフラッシュ同調撮影ということからこれを日中シンクロ撮影と言う。室内の窓際において外の明るい風景に対して人物を明るく写すこともできる。



人物よりも背景が明るいので人物は暗く写ってしまう。



人物を適正露出にすると背景が露出オーバーになってしまう。

背景に露出を合わせてフラッシュを発光すると両方ともきれいに写る。

## スローシンクロ撮影

夜景の撮影では人物は暗く写るので、このようなときも人物はフラッシュで撮影する。夜景は三脚を用いた長時間露出になるが人物は一瞬のフラッシュ光なのでブレない。スローシャッターによるフラッシュ同調撮影なのでスローシンクロと言う。



露出は夜景に合わせてF 4で2秒、そして人物はフラッシュで照明するスローシンクロ撮影。

# フィルターの効果

## 偏光フィルター



ガラスや水面、植物の葉、プラスチックや塗装面など金属以外の表面で反射した光を偏光フィルターは遮る働きがある。このときその表面との角度が30～40度のときに、この効果が最大となり、この角度から離れるに従って効果は減少する。

偏光フィルターは大気中の水蒸気の反射を消すことで青空が色濃く再現され相対的に白い雲がクッキリする。



フィルターなし



フィルター使用

水面と葉の表面には明るい空が反射しているが、偏光フィルターはその反射光を遮ることで水中や葉の緑色を再現する。



フィルターなし



フィルター使用

## ソフトフィルター



光を散乱する小さな凸面を数多く設けた透明なフィルター。これをレンズの前に装着することで明るいところからの光が滲み、ソフトな描写になる。女性や花の写真に効果がある。



フィルターなし



フィルター使用

## クロスフィルター



透明なガラスに格子状に溝を設けたフィルターで、輝度の高い光源から十文字に光芒が発生する。夜景などで光の存在が強調できる。



フィルターなし



フィルター使用

# 被写体への光線

## 順光

被写体に正面から当たる光。撮影者は太陽を背にするので撮影しやすいが、写される人は眩しいので良い表情ができない。また煩雑な陰ができてしまう。



## 逆光

白い壁などの反射光を利用すると写される人の顔は明るくなり、陰も柔らかく美しい写真が写せる。レンズに太陽光が差し込まないように注意する。



## 斜光線

斜め横から当たる光で、被写体の陰影がはっきりするので立体感が出る。風景写真に適した光線。



## 柔らかい光

光がいろいろなところで反射をしたり散乱して被写体を柔らかく照明している状態。曇ったときも柔らかい光である。



## Ricoh Companies' Locations:

RICOH COMPANY, LTD.  
3-32-3, Higashi-Shinagawa, Shinagawa-ku,  
Tokyo, 140, Japan

RICOH CORPORATION  
475 Lillard Drive, Sparks, Nevada 89434,  
U.S.A.

RICOH EUROPE B.V.  
Groenelaan 3, P.O.Box 114, 1180 AC  
Amstelveen, Holland

RICOH EUROPE B.V. NIEDERLASSUNG  
DEUTSCHLAND, KAMERAS  
Mergenthalerallee 38-40, 65760 Eschborn,  
Germany

RICOH PHOTO PRODUCTS(ASIA), LTD.  
Unit D.E & F. 24/F China Overseas Building,  
139 Hennessy Road, Wan Chai, Hong Kong

RICOH AUSTRALIA PTY. LTD.  
148 Highbury Road, Burwood, Victoria, 3125,  
Australia

文と写真

馬場 信幸

イラストレーション・レイアウト

織間 勇

発行者

勝田 滋

著作制作

株式会社リコー

リコーフォトプロダクツ アジア LTD

1997年 ©

